

# 第2回坂祝町 学校の将来のあり方 検討委員会



8月29日(火) 15:00～

坂祝中央公民館

# 第1回学校の将来のあり方検討委員会

○前回の意見交流では

- ・児童生徒数の推移はどうなるのか
- ・小中一貫校がいいと思うので、進めてほしい
- ・これまでの小中一貫の教育と小中一貫校とは違うのかイメージできない
- ・子どもが毎日行きたい、先生が働きたいと思える学校、施設のことよりもソフト的な議論に期待
- ・多様な教育的ニーズのある子どもに対応できる柔軟な学校を期待
- ・新しい学校を作るのなら、誇れるものを作りたい

## 第2回学校の将来のあり方検討委員会

### ○本日の予定

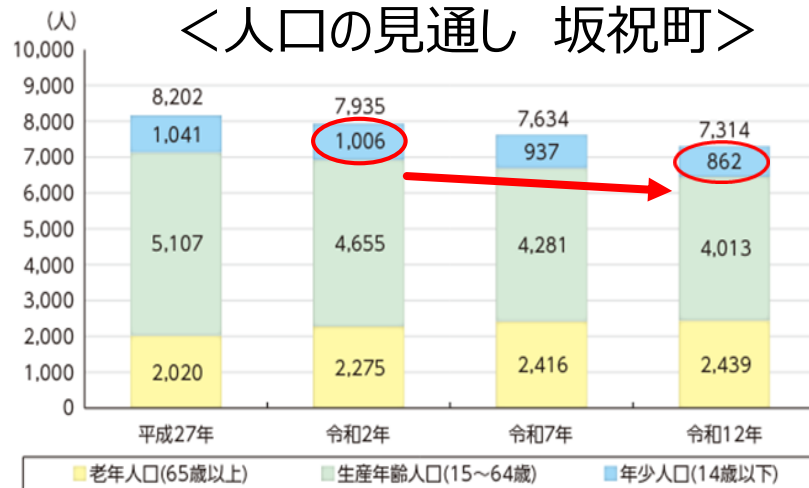
- ・児童生徒数の推移
- ・坂祝町の児童生徒の実態・課題
- ・県内における義務教育学校や小中一貫校の現状
- ・義務教育学校、小中一貫校と通常の小・中学校との違い



### ○本日の意見交流のポイント

- ・坂祝町のめざす学校は…  
義務教育学校 or 小中一貫校 or  
既存の小学校・中学校の枠組みがよいのか

# ◇ 今後の児童生徒数の推移



	14歳以下の人口
H27	1,041
R2	1,006
R7	937
R14	862

- 令和に入って、14歳以下の人口が微減
- 数年後には学年60名前後で推移

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
坂祝小	児童数	470	458	450	448	449	432	391
	学級数(通常)	16	16	16	16	16	15	14
坂祝中	児童数	191	206	215	235	208	218	235
	学級数(通常)	6	7	7	7	6	7	7

- 今後、数年間の各学年学級数は2~3で推移

# 坂祝町教育大綱 令和3年度～令和12年度

## ◇めざす子どもの姿

豊かな心を持ち、自ら実践するたくましい坂祝の子

### <方針>

- ・園・小・中連携のもとで、一人一人に「生きる力」を育む指導をする
- ・園や学校の保育・教育目標が、一人一人の子どもの姿に具現される園・学校経営を行う

### 【園・学校で育む力＝「生きる力」】

- ・豊かさ… 豊かな人間性や社会性
- ・確かさ… 課題解決に向け、自ら考え、仲間とともに新たな価値や創造を生み出す力
- ・たくましさ… 自己実現に向けた粘り強くやり抜く力

# 子どもたちに願う姿（小中学校の課題）

- 基礎的基本的な力を身につけ、自ら見つけ、自ら追究し解決しようとする意欲や態度を高めたい
- 「ことば」による対話で自他の思いや考えを理解し合い、共に学び合うことで、よりよい人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけたい
- よいと思ったことを、仲間とともにやり遂げようとし、自己肯定感や自己有用感を高めたい
- 夢や目標の実現をめざして、自らを磨き鍛えることや困難に立ち向かう姿勢を高めたい
- 人間関係の構築や、自己の伸長に生きる表現力、対話力を身につけたい
- 他人の話静静地に聞き、自分で考え的確に判断し、たった一人でも自信と勇気をもって行動する力を身につけたい

## 義務教育学校とは…

- 一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、**義務教育9年間の教育目標**を設定し、**9年間の系統性を確保した教育課程**を編成・実施する新しい種類の学校です。心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことが学校の目的とされています。
- 9年の課程が**小学校相当の前期6年、中学校相当の後期3年**に区分されていますが、1年生から9年生までの児童生徒が1つの学校に通うという特質を生かして、**9年間の教育課程**において「4—3—2」や「5—4」などの柔軟な学年段階の区切りを設定することが容易になります

## 小中一貫校とは…

- 併設型小・中学校は、既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校です。中学校区におけるこれまでの小中連携の取組を基盤として、一貫教育にレベルアップさせるイメージです。
- 併設型小・中学校には、義務教育学校と同様、一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学校段階間での指導内容の入替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例の実施が設置者の判断によって認められます。



# ◇ 県内の義務教育学校・小中一貫校

義務教育学校	小中一貫校
<ul style="list-style-type: none"><li>◦ <b>白川村立白川郷学園</b> 校長1・副校長1・教頭2 前期児童数85 後期生徒数29</li><li>◦ <b>羽島市立桑原学園</b> 校長1・教頭2 前期児童数104 後期生徒数53</li><li>◦ <b>本巣市立根尾学園</b> 校長1・教頭2 前期児童数27 後期生徒数15</li><li>◦ <b>北方町立南学園(北学園)</b> 校長1・副校長1・教頭2 前期児童数319 後期生徒数182</li><li>◦ <b>岐阜大学教育学部附属小中学校</b> 校長(統括)1・校長1・教頭3 生徒数935</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>◦ <b>岐阜市立厚見小・中学校</b> 校長1・副校長1・教頭2(分離型) 小・児童数593 中・生徒数241</li><li>◦ <b>岐阜市立藍川小・藍川北中学校</b> 校長1・副校長1・教頭3(分離型) 小・児童数152 中・生徒数114</li><li>◦ <b>岐阜市立芥見東小・藍川東中学校</b> 校長2・教頭2(分離型) 小・児童数229 中・生徒数178</li><li>◦ <b>土岐市立濃南小・中学校</b> 校長1・副校長1・教頭2(併設型) 小・児童数86 中・生徒数35</li><li>◦ <b>飛騨市立山之村小・中学校</b> 校長1・教頭1(併設型) 小・児童数10 中・生徒数5</li></ul>

# 小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

## 小中連携教育

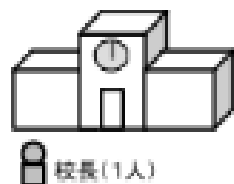
小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

## 小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

### ①義務教育学校

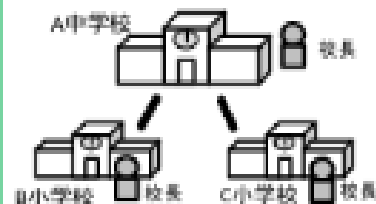
- ・新たな学校種(一つの学校)  
→一人の校長、  
一つの教職員組織
- 修業年限:9年  
(前期課程6年+後期課程3年)



### 小中一貫型小学校・中学校

- ・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態  
→それぞれの学校に校長、教職員組織

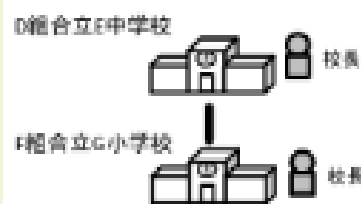
### ②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

- ① 総合調整を行う校長を定める
- ② 学校運営協議会の中核設置
- ③ 校長等ら選任

### ③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

※①のみ、いずれも施設の設置は問わない。

# ◇ 義務教育学校・小中一貫校比較

	義務教育学校	小中一貫校(併設型・連携型)
編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の区切りを減らし、新たに9年間をトータルで考える仕組み</li> <li>・1人の校長で、一つの組織</li> <li>・学年を「6・3」だけではなく、「5・4」や「4・3・2」という工夫した枠組みで編成</li> <li>※教員は小中両面が原則</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の小中学校を活かしながら、9年間をトータルで考える仕組み</li> <li>・それぞれに校長や教職員の組織がある</li> <li>・学年を「6・3」という従来の枠組みで編成</li> <li>※教員はそれぞれの免許があればよい</li> </ul>
施設形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施設一体型」が多い</li> <li>※学校の統廃合によって、新たに創設される学校が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施設併設型」または「施設分離型」が多い</li> <li>※どちらも校舎は別であるが、分離型は既存の小学校と中学校をそのまま一貫校としたものが多い</li> </ul>

# ◇ 義務教育学校・小中一貫校比較

	義務教育学校	小中一貫校(併設型・連携型)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間同じ教育環境で教育を受けることができるため、中1の壁、中1ギャップの緩和・解消</li> <li>・9年間という長いスパンで教育方針を検討するため、柔軟にカリキュラムを組める</li> <li>・小学校段階から、教科担任制を導入できる</li> <li>・異学年交流による精神的な発達</li> <li>・継続的な生徒に対する指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校への入学に不安を感じる生徒が減少、中1ギャップの緩和・解消</li> <li>・上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった</li> <li>・施設併設型であれば、児童生徒同士の交流の機会が増加</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな変化を起こす機会が失われる</li> <li>・小学校卒業の達成感がなくなる</li> <li>・中学校の新鮮さが薄れる</li> <li>・リーダーシップや自主性を養う機会が減る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の節目の意識が薄れ、新しいスタートが切りにくくなる可能性</li> <li>・小中間の連絡・調整に要する時間が増加する可能性</li> </ul>

## 第2回学校の将来のあり方検討委員会

### ○前回の意見交流では

- ・児童生徒数の推移はどうなるのか
- ・小中一貫校がいいと思うので、進めてほしい
- ・これまでの小中一貫の教育と小中一貫校とは違うのかイメージできない
- ・子どもが毎日行きたい、先生が働きたいと思える学校、施設のことよりもソフト的な議論に期待
- ・多様な教育的ニーズのある子どもに対応できる柔軟な学校を期待
- ・新しい学校を作るのなら、誇れるものを作りたい

### ○本日の意見交流のポイント

- ・坂祝町のめざす学校は…

義務教育学校 or 小中一貫校 or

既存の小学校・中学校の枠組みがよいのか